

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2010年12月1日～2011年1月31日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第214回～第217回）
3. IASB及びFASBに対するASBJのコメント（2010年12月1日～2011年1月31日）
4. IFRS財団Trustee会議を東京で開催（サテライト・オフィスを東京に設置することを公表）
5. FASBと第10回定期協議を開催
6. AOSSG活動報告
7. 国際コンファレンス「会計プロフェッション：持続的な経済成長に向けて果たすべき役割」に加藤副委員長、島崎評議員が参加
8. 日中韓三ヶ国会議（臨時）を北京で開催
9. 米国ライス大学スティーブン・ゼフ教授来日
10. ASBJオープン・セミナー第9回「IFRSの流れをつくるもの」を開催
11. 福岡、札幌地区でASBJ/FASFとの意見交換会を開催
12. 第12回基準諮問会議を開催
13. プロジェクト進捗（2011年1月31日現在）
14. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発 (2010 年 12 月 1 日～2011 年 1 月 31 日)

1) [【ED】企業会計基準公開草案第 45 号 \(企業会計基準第 12 号の改正案\)「四半期財務諸表に関する会計基準 \(案\)」及び企業会計基準適用指針公開草案第 42 号 \(企業会計基準適用指針第 14 号の改正案\)「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針 \(案\)」等の公表 \(2010 年 12 月 22 日\)](#)  
(コメントの募集は 2011 年 1 月 25 日までとなっています。)

2) [【DP】「リース会計に関する論点の整理」の公表 \(2010 年 12 月 27 日\)](#)  
(コメント募集は 2011 年 3 月 9 日までとなっています。)

3) [【DP】「顧客との契約から生じる収益に関する論点の整理」の公表 \(2011 年 1 月 20 日\)](#)  
(コメント募集は 2011 年 3 月 28 日までとなっています。)

### 【凡例】

DP： 論点整理・検討状況の整理

ED： 公開草案

Final： 会計基準/適用指針等 (最終)

## 2. 企業会計基準委員会の概要 (第 214 回～第 217 回)

### 1) [第 214 回 \(2010 年 12 月 2 日開催\)](#)

- |                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>a. 四半期会計基準等の改正に関する検討</li><li>b. リース会計専門委員会における検討状況</li><li>c. 特別目的会社専門委員会における検討状況</li><li>d. 収益認識専門委員会における検討状況</li><li>e. 金融商品専門委員会における検討状況 (金融負債)</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

a. 次回の委員会での公開草案の議決を前に文案の検討が行われました。

第 1 及び第 3 四半期のキャッシュ・フロー計算書の開示を省略する場合の非資金項目等の範囲と注記情報の削減の論点を中心に検討が行われました。

b. 論点整理の公表を前に文案の検討が行われました。

文案は、各論点に係る論点を整理するとともに、今後、我が国の会計基準を作成していくに際して特に重要となる 4 つの論点 (借手の会計処理について、現行のファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引の分類に代えて、あらゆるリース取引に単一の使用权モデルに基づく会計処理を適用すること等) についての質問事項が設けられました。

c. 前回委員会での検討に引き続き、コメントに対する対応の検討が行われました。

d. 論点整理の文案検討が行われました。

従来から、収益認識については、内容が難解であり、現在の取扱いとの違いはどこにあるのか等を明確にし、わかりやすく整理する工夫が必要である旨の指摘がされました。

文案は、国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) で提案されているモデルの概要を整理し、実際の取引に際しての各ステップにおける収益認識に係る考え方をフロー図で示す等の工夫が加えられています。

e. 2010 年 10 月、IASB が金融負債の分類及び測定を国際財務報告基準 (IFRS) 第 9 号「金融商品」に取り込んだことを踏まえて、金融負債におけるトレーディング目的区分の新設や公正価値オプションの導入等、我が国会計基準の IFRS 第 9 号とのコンバージェンスを念頭に置いた検討が開始されました。

## 2) 第215回(2010年12月16日開催)

- a. 特別目的会社専門委員会における検討状況(参考人意見聴取)
- b. 企業会計基準公開草案「四半期財務諸表に関する会計基準(案)」及び関連する会計基準等の公開草案の公表
- c. 「リースに関する論点の整理」の公表
- d. プロジェクト計画表の更新
- e. 収益認識専門委員会における検討状況

- a. 作成者、利用者及び監査人を参考人として招致し、今回の改正対応についての意見聴取が行われました。

作成者からは、公開草案の内容で進めることは、メリットに比較してデメリットが大きいと予想されるため、強く反対するとの意見が、監査人からは、本来の趣旨から逸れた現行実務に対する問題意識が示されるとともに、実際の開示例を見た場合に、オフバランスとなっている情報が対総資産比や対借入債務比で非常に大きな影響を有する企業もみられるという意見が示されました。

- b. 四半期財務報告の大幅簡素化に係る公開草案の公表議決が行われました。

公開草案は、①第1及び第3四半期の四半期キャッシュ・フロー計算書を省略可能とする、②損益情報は期首からの累計期間の情報を原則とする、③注記事項の簡素化を主な内容としています。

- c. リース会計に関する論点の整理の公表議決が行われました。

論点整理は、契約におけるリース物件を使用する権利とその対価を支払う義務に基づき資産と負債を認識し会計処理する「使用权モデル」を考へる基本においています。

- d. 委員会での会計基準の検討スケジュールを示すプロジェクト計画表の更新が行われました。

- e. 次回委員会での議決を前に論点整理の文案の検討が行われました。

## 3) 第216回(2011年1月12日開催)

- a. 「顧客との契約から生じる収益に関する論点の整理」の公表
- b. 特別目的会社専門委員会における検討状況
- c. 金融商品専門委員会における検討状況(金融負債)
- d. 金融商品専門委員会における検討状況(公正価値測定・開示)
- e. IASBの意見募集「発効日と移行方法」

- a. 収益認識に関する論点の整理の公表議決が行われました。

収益認識の単位については、契約に含まれる履行義務単位で収益認識を行うこととしています。

測定については、取引価格に基づいて収益認識を行うことを基本としています。割引、インセンティブ等の要因によって対価の金額が変動するような場合には、企業が顧客から受け取ると見込まれる対価を確率で加重平均した金額を取引価格とすることが提案されています。ただし、これについては、まだ検討の余地があることも示されています。

- b. 前回委員会での参考人意見聴取を受け、特別目的会社の連結に係る改正基準の文案の検討が行われました。

- c. 複合金融商品の取扱い及び開示の論点の検討が行われました。

- d. その他有価証券の決算時の時価への期末前1か月市場平均の使用や、外貨建取引等会計処理基準の決算日前後一定期間の直物為替相場に基づいた平均相場の使用等、他の基準における公正価値の取扱いについての検討が行われました。

- e. IFRS発行日に関するIASBの意見募集に

対する検討が行われました。

今後、多くの IFRS が開発される中、発効日を1つにまとめるのか（単一日アプローチ）、一定期間にわたって段階的に適用するのか（段階的アプローチ）について意見を求めるものです。

今回の委員会では、それぞれのアプローチの長所および短所が検討されました。

#### 4) 第 217 回 (2011 年 1 月 21 日開催)

- a. 無形資産に関する検討
- b. 企業結合専門委員会における検討状況
- c. 退職給付専門委員会における検討状況
- d. 金融商品専門委員会における検討状況（金融負債）
- e. 金融商品専門委員会における検討状況（ヘッジ会計）
- f. 後発事象に関する会計基準の検討
- g. IASB の意見募集「発効日と移行方法」

a. 開発費の資産計上については、単体財務諸表検討会議での検討が継続していることから、今後検討することとし、開示項目の整理、ライセンスの基準での取扱い、個別に買入れた仕掛研究開発の償却開始時点の明確化、未だ使用可能でない無形資産の減損テストの頻度についての検討が行われました。

b. 企業結合(ステップ2)の検討が再開され、各論点の検討状況の確認と今後検討すべき論点の確認が行われました。

c. ステップ1の最終基準化に向けた検討が再開されました。

割引率および包括利益を表示しない個別財務諸表上の具体的な会計処理についての検討が行われました。

d. 管理上、組込デリバティブを区分している場合の区分処理の取扱い等についての検討が行われました。

e. IASB から公表されたヘッジ会計に係る公

開草案に対するコメントの検討が行われました。

f. 後発事象の定義を考える場合の会社法の計算書類における取扱い、金融商品取引法の財務諸表における取扱いについての検討が行われました。

また、会社法の後発事象の定義が定める時点以降に発生した修正後発事象を金融商品取引法上の財務諸表でどう取り扱うべきかの検討が行われました。

g. IFRS の発効日に関する段階的アプローチと単一日アプローチについて、新たな基準が財務報告を改善するとの考え方を基に、早期に適用が可能なものから強制適用を求める段階的アプローチを支持する方向でコメントの検討が行われました。

#### 3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2010 年 12 月 1 日～2011 年 1 月 31 日)

1) [IASB/FASB 公開草案「リース」に対するコメント](#)を提出 (2010 年 12 月 15 日)

2) [IASB意見募集「発効日と移行方法」へのコメント](#)を提出 (2011年1月31日)

#### 4. IFRS 財団 Trustee 会議を東京で開催 (サテライト・オフィスを東京に設置することを公表)

2011 年 2 月 9 日、10 日の両日、国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) Trustee 会議が東京、ホテルオークラで開催されました。

今回の会合で、アジア・オセアニア地域におけるリエゾン活動を強化するため、サテライト・オフィスを東京に設置することが正式に決定されました。IASB に対するアジア・オセアニア地域からの意見発信や IASB からの情報提供が今まで以上にスムーズに行われることが期待されます。企業

会計基準委員会（ASBJ）/財務会計基準機構（FASF）としても、今後サテライト・オフィスの円滑な開設と運営に向け、関係者と一丸となって協力してまいります。

また、2月10日には、FASF主催によるIFRS財団Trustee、金融庁幹部、国内IFRS関係者との夕食会をホテルオークラで開催いたしました。当日は、Tweedie IASB議長、藤沼IFRS財団副議長、自見金融担当大臣、東金融担当副大臣をはじめ多数のご来賓の皆様にご出席いただきました。



## 5. FASB と第 10 回定期協議を開催

ASBJ と FASB の代表者は、2011 年 2 月 7 日、8 日の 2 日間にわたり、米国ノーウォークで第 10 回定期協議を開催いたしました。この会合は、会計基準のグローバル・コンバージェンスを目指した相互の対話を促進するために ASBJ と FASB の間で定期的に行っているものです。今回の会合では、昨年 12 月に正式に議長に就任したレスリー・F・サイドマン議長も参加し、活発な意見交換が行われました。

会議では、IFRS の利用に関連する両国の状況を踏まえて、ASBJ 及び FASB における国際的なコンバージェンスの最新状況を確認し、また、以下の個別プロジェクト等について意見交換を行いました。

- 金融商品
- 収益認識
- 負債の横断的論点
- リース

このような継続的な議論により相互理解を深めることは、ASBJ 及び FASB におけるこれからの審議や、改善を図るべき重要な項目に関して IASB とともに進めている今後の高品質な会計基準の開発に役立つと考えており、両者は引き続き、直面する課題や現在の懸案事項について意見交換していくことといたしました。

## 6. AOSSG 活動報告

アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）では、現在西川郁生 ASBJ 委員長が AOSSG の議長役に選任されており、副議長役（オーストラリア会計基準設定主体）と協力して、AOSSG に関して多くの取組が行われています。

<AOSSG から IASB 等へのコメントの提出状況>

- IASB による意見募集「発効日と移行方法」への AOSSG からのコメント・レターの提出（2011 年 1 月 31 日）
- IFRS 財団 Trustee による質問票「解釈指針委員会レビュー」への AOSSG からのコメント・レターの提出（2011 年 1 月 31 日）
- IASB からの公草草案「保険契約」へのコメント・レターの提出（2010 年 11 月 30 日）
- IASB のスタッフ文書「公正価値測定」へのコメント・レターの提出（2010 年 12 月 13 日）
- IASB によるプロジェクト「連結財務諸表」へのコメント・レターの提出（2010 年 12 月 14 日）

- ・ IASB による公開草案「リース」へのコメント・レターの提出 2010 年 12 月 14 日)
- ・ IASB のスタッフ文書「財務諸表の表示」へのコメント・レターの提出 (2011 年 1 月 5 日)

## 7. 国際コンファレンス「会計プロフェッション：持続的な経済成長に向けて果たすべき役割」に加藤副委員長、島崎 IFRS 対応会議国際対応委員会委員長が参加

国際コンファレンス「会計プロフェッション：持続的な経済成長に向けて果たすべき役割」が 1 月 5、6 日の二日間にわたり、インド勅許会計士協会が主催して開催され、加藤厚 ASBJ 副委員長と島崎憲明 IFRS 対応会議国際対応委員会委員長が参加されました。

内容的には、全体として、インドの経済成長を踏まえ、勅許会計士がどのような役割を果たしていくべきかというテーマで、インド基準と IFRS とのコンバージェンス、インド会計士の海外での活動等について、講演やパネリストによる情報・意見交換がされています。

海外から多くのゲスト・スピーカー（日本からの参加者の他、IASB Ian Mackintosh 次期副議長（予定）や国際会計士連盟 Ian Ball CEO 等）が招致されていました。

日本からの参加者は、以下をテーマとした講演がなされ、インド関係者から、訪印とともに講演内容に対して、高い感謝の辞が示されました。

- ・ IFRS 対応会議国際対応委員会 島崎委員長：「グローバルな会計基準に向けて：日印関係の強化」
- ・ 金融庁 古澤企業開示課長：「IFRS と

のコンバージェンス：日本における最近の動向」

- ・ ASBJ 加藤副委員長：「AOSSG の近況」

## 8. 日中韓 3 カ国会議(臨時)を北京で開催

2011 年 1 月 25 日に日中韓 3 カ国会計基準設定主体による小会議が北京で開催され、ASBJ からは、西川委員長と新井副委員長が参加しました。

今回は、昨年 12 月に中国の会計基準設定主体である財政省会計規制局 Director-General であった、Liu Yuting 氏が異動となり、Yang Min 女史が同職につかれたことを踏まえ開催されたものです。

今後の 3 カ国会議のあり方等について議論がなされています。

## 9. 米国ライス大学スティーブン・ゼフ教授来日

米国ヒューストン/ライス大学の著名な会計歴史学者であるスティーブン・ゼフ教授が 2011 年 1 月 19 日来日されました。ゼフ教授は米国会計基準や国際会計基準の歴史的経緯に詳しく、世界各国の会計事情にも精通され、各国の会計士協会の委員等を歴任し活躍されており、このような実績から 2002 年には米国会計殿堂入りされ、各国から数々の称号を得ておられます。

今回の来日の目的は、IFRS 財団の委嘱を受け、「IASB の歴史/2001-2010」を今回同じく来日されたオランダアムステルダム/フライ大学のカンファーマン教授と共同執筆するにあたり、IASB にとって特に重要であった国の一つとしての日本のこの期間の IFRS に関連した動き、事情について調査、理解するため、日本の主

要な関係者とのインタビューを行うことです。

ゼフ教授らお二人は FASF の協力を得て、FASF を拠点に 1 月 24 日から 2 週間 にわたり、日本の主要な政策決定関与者、財務諸表作成者、財務諸表利用者、監査人、基準設定主体者、等々合計 29 名の方々とインタビューを行い、2004-2008 年の EU 同等性評価問題、2007 年東京合意、2009 年中間報告等この期間での IFRS に関連した主要な動き、日本と IASB との関係、やり取りの中での日本固有の技術的論点、懸念等について突っ込んだ質問がなされました。

両教授は、同じく IFRS 財団の委嘱を受け、2007 年に「IASB の歴史/1973-2000」を共同執筆、出版しており、今回はその続編となります。今回も前作同様に、実務家、基準設定者、規制当局、及び研究者の参考文献として役立つものを目指し、日本のみならず、欧米各国、アジア主要国等で 300 人を超える多数の関係者とのインタビューを行う予定であり、それらを踏まえて 2013 年頃に「IASB の歴史/2001-2010」を出版する予定とのこと。

## 10. ASBJ オープン・セミナー「IFRS の流れをつくるもの」を開催

1 月 24 日 (月) に、ASBJ/FASF が主催する「ASBJ オープン・セミナー IFRS の最新動向と我が国への導入 (第 9 回)」が東京よみうりホールで開催され、米国ライス大学のスティーブン・ゼフ教授、IASB の山田辰己理事を講師に迎え、約 3 時間にわたって講演が行われました。

セミナーの冒頭 ASBJ 西川委員長からスティーブン・ゼフ教授の紹介と ASBJ のプロジェクト計画について説明をしたあと、

ゼフ教授からは、「What is Meant by a Jurisdiction's 'Adoption' of IFRS?」というテーマで、様々な国の IFRS の導入にあたっての経験を紹介しながら、各国の政策当局及び関係者が



国際的な基準をどのように採用 (Adoption) するか意思決定プロセスの共通化又は透明性の強化に向けた対応が、財務諸表の比較可能性を向上させることにとって非常に重要でありかつ難しい課題であると説明されました。



次に山田辰己 IASB 理事からは、12 月に更新された IASB ワークプランを基に、現在の IASB における作業の進捗状況、今後のスケジュール感について、間もなく最終基準の公表が予定されている「連結」プロジェクトや、本年 6 月の最終基準化に向け主要プロジェクトに指定されている「収益認識」、「リース会計」、「金融商品 (ヘッジ会計)」の主要論点について説明されまし

た。

なお、本セミナーの様子は [ASBJ Web セミナー\(会員専用サイト\)](#)において2011年5月10まで期間限定で掲載していますのでどうぞご利用ください。

## 11. 福岡、札幌地区で、ASBJ/FASFとの意見交換会を開催

ASBJ/FASFでは、地方におけるFASF会員企業、会計関係者とのコミュニケーションの強化を目的とした意見交換会を実施しています。

特に、IASBによる最新の基準開発の動向やその背景、ASBJによる基準開発の経緯や内容、今後の展望など、ASBJのホームページや新聞記事、雑誌記事などだけでは伝わりにくい最新の情報を直接お伝えし、またご要望を承ることは、国内の会計基準の開発におけるASBJの役割に対する理解を深め、IFRS導入に向けた環境整備を我が国全体でフォローしていく意味でも有意義なことと考えています。



今回は、1月28日に福岡地区、2月2日に札幌地区において、九州経済連合会、北海道経済連合会、各地区会計関係者とそれぞれ意見交換会/セミナーを実施いたしました。

意見交換会では、冒頭、高橋秀夫 FASF 事務局長から、FASF に対する日頃の協力

への謝辞と、運営への一層の協力をお願いしたあと、新井武広 ASBJ 副委員長より、ASBJの活動状況として、①IASBによる基準開発の動向、②ASBJのプロジェクト計画、③最近の公表物（四半期会計基準の公開草案）、④ASBJの国際活動、⑤その他（非上場会社の会計基準に関する懇談会の検討結果等）についてそれぞれ資料に基づき説明しました。参加者からは、会計基準を巡る今後の動向や四半期会計基準の公開草案などについて熱心に質問が寄せられました。

また、国内の会計基準の開発ばかりでなく、IASBにおける基準開発にも積極的に我が国の立場を発信している役割を担っていることなど、ASBJの機能や役割についても認識を深めていただくことができました。

今後も継続して、このような取組みを実施していきたいと考えています。

## 12. 第12回基準諮問会議を開催

2011年2月3日、第12回基準諮問会議が行われました。会議では、ASBJの最近の活動状況についての報告の後、IASBのプロジェクト計画の状況や単体検討会議の検討状況について意見交換が行われました。

その後、国際対応活動について、本年の予定等について説明が行われました。

最後に2010年度アンケート調査結果に関する現状の取組と今後の対応方針について報告し、連結先行という考え方の中で、会社法や税法へのASBJの意見発信のあり方や、IFRSの解釈や実務上の適用に関するASBJのサポートについて意見交換が行われました。



13. プロジェクト進捗（2011年1月31日現在）

	2010 Q4	2011 Q1	2011 Q2	2011 Q3	2011 Q4
<b>既存の差異に関連するプロジェクト項目</b>					
企業結合（ステップ2）		ED	Final		
無形資産		ED	Final		
<b>IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目</b>					
1 連結の範囲			ED		
2 財務諸表の表示 （フェーズB関連） （非継続事業）				ED	
3 収益認識		DP		ED	
4 負債と資本の区分					
5 金融商品 （金融資産の分類と測定） （金融負債の分類と測定） （減損） （ヘッジ会計）				ED	
6 公正価値測定・開示			Final		
7 退職給付 （ステップ1） （ステップ2）		Final			
8 リース	DP			ED	
9 認識の中止		DP		ED	
<b>IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目</b>					
引当金					
排出権					
保険					
<b>IASB/FASBの検討項目以外の項目</b>					
特別目的会社		Final			
四半期	ED	Final			
後発事象		ED	Final		

\*：既存の差異等に関する改正

[適用]

- DP 論点整理
- DP2 検討状況の整理（会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの）
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針（最終版）

斜体文字は終了したイベントを表しています。

## 14. お知らせ

### 1) ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入（第 11 回、第 12 回）のご案内

ASBJ/FASF では、本年度より IFRS 開発の最新動向や IFRS 導入に向けての我が国の活動状況に関する情報を提供するセミナーを全国各地にて延べ 12 回開催を致します。最近の開催予定は次のとおりです。

- 第 11 回（名古屋）：
  - 2011 年 2 月 25 日（金）13 時～16 時
  - （会場）デザインホール
  - （主な講師）金融庁、都 ASBJ 常勤委員、野村 ASBJ 常勤委員 他
- 第 12 回（東京）：
  - 2011 年 3 月 4 日（金）13 時～16 時
  - （会場）よみうりホール
  - （主な講師）金融庁、西川 ASBJ 委員長、加藤 ASBJ 副委員長、新井武広 ASBJ 副委員長 他

お申し込みいただきました皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。なお 第 12 回の模様は後日 [ASBJ Web セミナー（会員専用サイト）](#) にも掲載する予定です。

“ASBJ Newsletter”（第 19 号）

2011 年 2 月 21 日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人：下村昌作

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712